

[参考事項]

成果情報名：秋田県におけるアスパラガス褐斑病および斑点病の発生実態

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担 当 者 齋藤隆明・藤井直哉・他 1 名

[要約]

秋田県のアスパラガス圃場では、褐斑病の発生が山本を除く全ての地域で確認され、褐斑病と斑点病が混発している圃場もみられた。また、施設圃場では褐斑病、露地圃場では斑点病を主体とした防除対策を行う必要がある圃場が多い。

[キーワード]

アスパラガス褐斑病・斑点病・発生実態

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

2019年に由利地域のハウス半促成栽培作型でアスパラガス褐斑病(*Cercospora asparagi*)の発生が初確認された。また、病徴が酷似している病害として斑点病(*Stemphylium herbarum*)があり、本県では斑点病を対象とした防除が行われているが、両病害の発生実態は不明である。

そこで、県内におけるアスパラガス褐斑病および斑点病の発生実態調査を行い、防除対策を立てるための資料とする。

[成果の内容及び特徴]

- 1 全県のアスパラガス圃場を調査した結果、山本を除く全ての地域で褐斑病の発生が確認され、褐斑病と斑点病が混発している圃場もみられた(表1、2)。
- 2 ハウス半促成栽培では、調査した5地域全てで褐斑病が確認され、18圃場中16圃場(発生圃場率88.9%)で確認された。そのうち褐斑病単独又は優占圃場は13圃場(発生圃場率72.2%)、斑点病単独又は優占圃場は5圃場(発生圃場率27.8%)となり、褐斑病が主である圃場が多かった(表1、図1)。
- 3 露地栽培では、山本と仙北地域を除いて褐斑病が42圃場中29圃場(発生圃場率69.0%)で確認された。そのうち、褐斑病単独又は優占圃場は10圃場(発生圃場率23.8%)、斑点病単独及び優占圃場が32圃場(発生圃場率76.2%)となり、褐斑病は併発しているが斑点病が主である圃場が多かった(表2、図1)。
- 4 県内において、ハウス半促成栽培では褐斑病、露地栽培では斑点病を主体とした防除を行う必要がある圃場が多い。

[成果の活用上の留意点]

- 1 この成果は、全県のアスパラガス圃場60圃場の調査結果に基づく結果である。
- 2 各地域のサンプル収集時期は9月上旬～10月下旬であった。
- 3 調査は、採集したサンプルを湿室に置き、7～10日後に実体顕微鏡で標徴を1圃場あたり100個観察し、褐斑病菌または斑点病菌の分生子の有無を確認した。調査した結果、褐斑病菌のみ確認された圃場：褐斑病単独、褐斑病菌が斑点病菌よりも多く確認された圃場を混発(褐斑病優占)、斑点病菌が褐斑病菌よりも多く確認された圃場：混発(斑点病優占)、斑点病菌のみ確認された圃場：斑点病単独とした(表1、2、図1)。
- 4 褐斑病と斑点病の識別方法は、実用化できる試験研究成果「秋田県におけるアスパラガス褐斑病の発生」(2020)を参照する。
- 5 防除薬剤の選択にあたっては、最新の秋田県農作物病害虫・雑草防除基準を参照する。

[具体的なデータ等]

表1 ハウス半促成栽培における褐斑病および斑点病の発生状況

調査地域	調査圃場数	褐斑病 単独	混発 (褐斑病優占)	斑点病 単独	混発 (斑点病優占)
鹿角	—	—	—	—	—
北秋田	2	0	0	0	2
山本	—	—	—	—	—
秋田	4	2	1	0	1
由利	4	2	2	0	0
仙北	2	0	1	1	0
平鹿	6	2	3	1	0
雄勝	—	—	—	—	—
合計	18	6	7	2	3

※鹿角、山本、雄勝地域ではハウス半促成栽培が行われていないため、調査の対象としなかった。

表2 露地栽培における褐斑病および斑点病の発生状況

調査地域	調査圃場数	褐斑病 単独	混発 (褐斑病優占)	斑点病 単独	混発 (斑点病優占)
鹿角	5	0	0	1	4
北秋田	3	1	0	0	2
山本	4	0	0	4	0
秋田	6	2	2	1	1
由利	7	0	1	1	5
仙北	3	0	0	3	0
平鹿	7	1	2	0	4
雄勝	7	0	1	3	3
合計	42	4	6	13	19

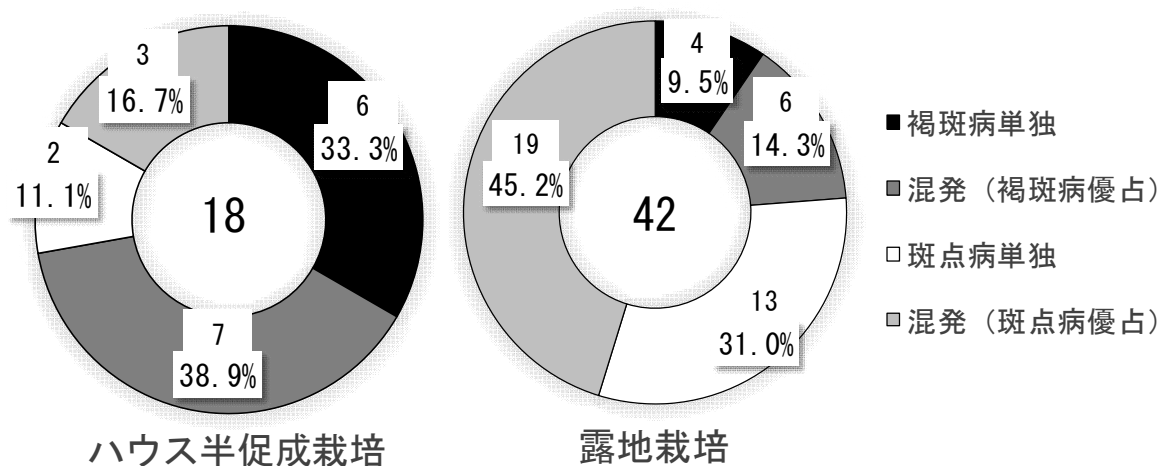


図1 秋田県における褐斑病および斑点病の発生状況

※1 円グラフの中央の数字は調査圃場数、各パーセンテージの上の数字は圃場数を表す。

[その他]

研究課題名：県内におけるアスパラガス褐斑病の発生実態

研究期間：令和2年度

予算区分：県単

掲載誌等：なし